

越山若水

2021.9.6

研究者が論文を書くとき、必ず付け加えることがある。「この研究には『コンフリクト・オブ・インタレスト(利益相反)』はありません」。内容の公正さを担保するためらしい▼耳慣れないカタカナ語だが、その意味とは? 一般向けの科学解説で知られる生物学者、福岡伸一さんは「迷走生活の方法」(文藝春秋)で次のように説明する。

健康にいいとか、病気の予防につながるかどうかといった論文は、特定の会社や商品に有利に働く場合がある▼特に、企業から研究資金をもらったり、家族に業界関係者がいたり、企業の株を持っていたりすれば、なおさらだ。互いの利得関係からデータの選択や解釈が偏向し、結論が意図的に導かれるかもしれない。その疑念を晴らすため「利益相反がない」ことを表明する▼あるカナダの疫学者は、赤身の肉を食べても、心臓や血管の病気にはならない―と、通説に反する論文を発表した。調べてみると、この学者は数年前に別の研究で業界団体から費用援助を受けていたという。倫理観が求められるのは、何も研究者に限った話ではない▼政治家もまたしかり。元農水相の500万円受領疑惑やデジタル相の企業恫喝発言など、公平性を疑う事態が後を絶たないからである。いよいよ衆院選も近づいてきた。候補者の演説にもひと言前置きがほしい。「この公約には利益相反はありません」